どぼく散歩②
～秋葉原～

東京都内の土木遺構と人気のエリアを訪ねる土木さんぽ。

第２回は秋葉原を起点に御茶ノ水から神田界隈をぐるっと巡ります。言わずと知れた電気街秋葉原、酒好きの聖地として知られる神田。実はこのエリア、土木遺産の宝庫でもあります。橋や高架橋、足元の路面にさえ、いまだ数々の土木の記憶が刻まれています。普段から見慣れた風景も、このマップをたどっていけば新しい発見があるかもしれません。

ほ

◉聖橋

1927（昭和2）年、関東大震災の復興橋として架橋された橋長92m、幅22mの聖橋。神田川の上空36.3mで美しい放物線を描く鉄筋コンクリート製のアーチ橋です。設計は日本武道館等を手掛けた山田守。今年1月、都内の橋では清洲橋や永代橋等に続き6例目となる選奨土木遺産に認定されました。

◉御茶ノ水駅周辺の耐震補強工事

昌平橋から水道橋間では神田川に沿って走る中央線の盛土部分で大規模な耐震補強、駅舎の改修工事が行われています。長さ15m、直径約20cmの棒状の補強材を約4,000本打ち込み、盛土の法面、壁面の補強を施します。

と

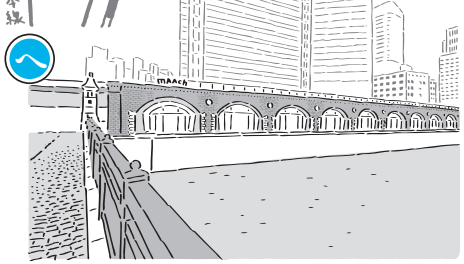
◉地下鉄のマンホール

万世橋を渡り神田方面に向かう高架橋のたもとに、その黒光りが歴史を感じさせるマンホールがあります。よく見ると「帝都高速度交通営団」の文字が。中央には「S」のマークもはっきりと確認できます。いまや「東京メトロ」と名称を変えた、かつての営団地下鉄のマンホールです。ちょっとわかりにくいかもしれませんがぜひ探してみてください。

ろ

◉和泉町ポンプ所

1922（大正11）年に建てられた鉄筋コンクリート2階建の上水施設。建物の外装はレンガ風のタイルで改修されています。これを囲む塀には当時のレンガが残されていて一部、新しいレンガに置き換えて補修した跡がありますが、当時の面影を今に伝えています。



◉神田駅高架橋

鍛冶町橋高架橋には1919（大正8）年に東京駅から万世橋駅間で中央線が延伸開業した当時の躯体がそのまま残っています。当初はアーチ式で設計されましたが、この一帯は地盤がそれほど強固ではなかったため、柱の上にスラブを架設する構造に変更されました。関東大震災の際に補修されたはず。オリジナルと補修部分を見定めるのも楽しいですよ。（地図外）

どぼく
散歩②
～秋葉原～

関東大震災協力防災の地碑には、住民が団結して防火に努めた町の名前が記されている

ビル街の喧騒から少し離れると、やわらかな自然に囲まれた和泉公園

■東京の40％が焼失した大震災から街を守った

ウィークデーにも関わらず秋葉原の駅前は、家電製品や電子部品、人気キャラクターのお宝グッズを求めるたくさんの人で賑わっていました。外国から訪れる人が多いのもこの街の特徴。人波には多彩な言葉が行き交い、国際都市の様相です。

JR秋葉原駅の中央改札口から右手へ、昭和通りを横断すると、そこは駅前の喧騒から離れた住宅街。しばらく歩くと新緑に包まれた都会のオアシスのようなスポット、和泉公園があります。入り口にひっそりとたたずむのが「防火守護地」の石碑。目を凝らすと、関東大震災時に町の人々が団結して焼失を免れたとして、焼け残った町名が記されています。この佐久間町、和泉町一帯は江戸期において、大火の出火元として「悪魔町」とも呼ばれる不名誉なレッテルを貼られていました。しかし、時を経て大正時代、「この地から火事を出してはならない」という長老たちの戒めを守った市民たちが、関東大震災発生時に命がけで協力し、延焼をくい止めました。一帯は「関東大震災の奇跡」と称賛され、悪魔町の汚名はここに返上されました。

和泉公園から更に北へ、少し歩くと「和泉町ポンプ所」。レトロな佇まいがこの周辺の大正期の街並みを彷彿とさせます。

秋葉原UDXは2006年開業。１階から３回には飲食店等が入り待ち合わせにも最適

■高層ビルの足元にたたずむ江戸期の石垣

再び昭和通りを渡ってJRの高架橋をくぐり駅前に戻ってきました。この辺りは再開発以前に「神田青果市場」があったところです。その大きさは東京ドームに匹敵するほど巨大で、神田川を辿って遠く鎌倉方面からも新鮮な野菜が流通していました。

更にさかのぼること江戸時代は、大名や旗本の屋敷が立ち並んでいたといいます。ここから発掘された当時の石垣は、駅前にそびえる複合ビル「秋葉原UDX」の広場でモニュメントとして再利用されています。現代的な高層ビルと、その足元を飾る江戸期の石垣。基礎としての強度を高めるためでしょうか、ひとつずつ丁寧にくさび状に加工された石垣の美しいフォルムが目を引きます。

天高くそびえるUDXの麓では、武家屋敷の名残りが静かに佇む

優美な曲線を描く松住町架道橋。遠くからは編目模様が美しく、近くで見れば視界に収まりきらぬ威容

取水塔の実寸大模型を抜けた先には、近現代の展示がある。東京都水道歴史館（地図外）

左／マーチエキュート神田万世橋の屋上。元々プラットホームだったこの場所は、ガラス張りの展望スペースに変わり、電車の往来を間近で見ることができる
右／屋上へと続く階段の壁は、東京駅のレンガに見られる「覆輪目地」が施されている

■威光を放つ秋葉原のシンボル タイドアーチ橋

秋葉原を背にして神田川沿いを御茶ノ水方面に向かうと突如として目に飛び込んでくるのが秋葉原駅と御茶ノ水駅の間を結ぶ「松住町架道橋」です。改めて見上げるとその存在感に圧倒されます。

この架道橋が建設されたのは1932（昭和７）年。交通量の多い昌平橋交差点を越えるため橋脚を設けず、支間を大きくとることができるアーチ橋が採用されました。また支点部同士を引張部材（タイ）で結ぶことで水平反力を橋桁で受けるタイドアーチ形式は、鉄道橋として国内初のケースです。力強さと美しさを兼ね備えたその姿。秋葉原のシンボルの名にふさわしい土木構造物です。

この架道橋の先にある昌平橋から水道橋間1.2kmの中央・総武線では５年前から耐震補強工事が始まっています。御茶ノ水エリアの象徴「聖橋」もRCアーチ補修がなされました。並行して御茶ノ水駅舎の更新、路盤の耐震補強が展開されており、都市土木工事の迫力を間近に感じることができます。

ここまで来たら、もう少し本郷方面へ。順天堂病院の裏手にある「東京都水道歴史館」まで足を伸ばしてみましょう。江戸期から現代まで、東京水道の歴史を紹介する施設です。都内で出土した市中に通水するための木樋（もくひ）や継手、井戸の実物が展示されていて、玉川上水をはじめとする江戸上水、近現代の水道整備の経緯等も知ることができます。

工事中の聖橋を渡って南へ向かうと、右手に見えるのがニコライ堂の愛称で親しまれている「東京復活大聖堂」。都会のビル群の真ん中でそこだけヨーロッパの趣です。

神田川を下流方面に坂を下り、秋葉原に戻る途中に「旧万世橋駅」の遺構が公開されています。場所は再開発で生まれ変わった「マーチエキュート神田万世橋」。1912（明治45）年に開業した万世橋駅は中央線の神田、御茶ノ水間にあった駅です。1943（昭和18）年に廃止されましたが、かつてはターミナル駅として大変な賑わいを見せていました。そのプラットホームや階段がほぼ当時の姿のまま残されています。通路の壁はひんやりとした感触ですが、柔らかな曲面がどこか温かさも感じさせてくれます。

万世橋から中央線沿いに神田駅方面へ。東京駅に連なる東京～万世橋間の高架橋は大正期に構築された鉄筋コンクリート製、レンガ造りの鉄道インフラ。およそ100年の時を超えていまだ現役の土木構造物に触れることができます。